

MIRAI「多文化共生イノベーション研究育成」フェロースツ
 MIRAI (多文化共生イノベーション研究育成) フェロースツ
 Multi- and Inter-cultural Research and Innovation Fellowship

MIRAIフェロースツは、本学の大学院博士後期課程の大学院生を対象として、研究深化・キャリア開拓を支援するプログラムです。博士学生に自身の高度な専門性と研究能力をより広い社会の文脈で生かしてもらうことを目指し、異分野との研究交流や、社会課題の現場へのフィールドワークの機会を提供しています。

ハビキンさんは外大の博士課程の院生です。勉強好きなメイちゃんも研究に興味はありますが、将来絶対に大学の先生になりたいというわけではなくし...と迷っている様子。

文系の博士後期課程の大学院生(以下「院生」)が何をしているか、あまり知られていないかもしれません。実際、どういった生活を送っているのでしょうか。今回は、メイちゃんと一緒に、院生の生態を探っていきましょう。早速、ハビキンさんが、大学院で知り合ったMIRAIフェロースツの仲間を連れ

メイちゃん、進路に迷っているなら、大学院も選択肢に入れてみない？

そろそろ進路についても考えたい...。周りはみんな就職するって言っているけど、私もこのまま就職がいいのかな...。せつこ、<専攻語の勉強が面白くなってきたのに...>

文系博士院生の生態



東京外国語大学MIRAI生有志

- ・フェロースツ.....1.2
- ・院生生活.....3.4
- ・仕事・アルバイト.....5.6
- ・院生の悩み、モチベ維持法.....7.8
- ・進路.....9.10
- ・院生の利点、エピソード.....11.12
- ・おまけ「院生の語学勉強法」.....13.14

目次

次のページからは、MIRAIに所属する院生たち15人に協力してもらったアンケート結果を交えつつ、院生の生活を紹介していきます！

同じD2のココです。私は人間の認知の基本的な概念である「時間」をドイツ語がどのような手段で表現しているかを研究しています。学部ときは経済学を専攻していましたが、留学をきっかけに、修士課程から言語学に変更しました。

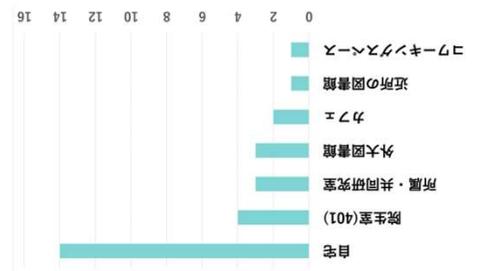
私はD3の柴犬よ。日本語教師兼大学院生で、研究テーマは日本語の条件(たれば)表現なの。私は大学院に入る前に社

D2(博士課程2年目)のハビキンだよ。アジアの社会保障について、例えば、フィリピン人の保険問題について研究しているよ。専攻は中国語だったけれど、英語と韓国語も話せるよ。

2023年度第8回MIRAIゼミ
 「院生の精神衛生を語る」ではみんなの悩みや不安を共有しました。



日常的にスマホに行かない理系院生と比べ、文系の研究はパソコンや資料があればどこでもできるケースが多いです。それでも何人かは研究場所としてキャンパスに通っているようです。研究室にもよりどりというわけでもなく、自宅でできることから、東京に住んでいない場合もあるようです。



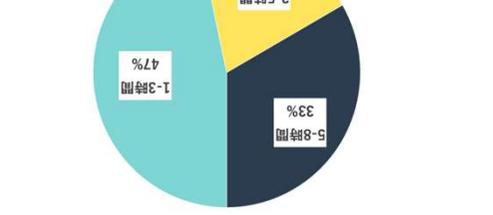
Q: 普段どこで研究している？

「院生って授業あるの?」とよく聞かれます。院生(特に博士後期課程)の必要な単位数は学部と比べるとかなり少ないです。なので多くても週に3コマ、2,3年次になると授業がない人もたくさんいます。

キャンパスで遭遇することは少ない「レキヤラ」の院生は、入りたいどこに生息しているのでしょうか? 皆さんが普段どこで研究をしているのか聞いてみました。(複数回答可)

研究生活

1時間未満と回答した人はいませんでした。仕事の有無や学年の違いなどの個人差はあれど、皆さん毎日コツコツと研究を続けているようです。



Q: 1日に平均何時間勉強・研究している？

「院生は一日中研究している」そのイメージは合っているのでしょうか。実際に1日に何時間勉強・研究しているのか聞いてみました。

Q: 普段どこで研究している？

「院生って一日中研究しているんですか?」

人によりますね。フルタイムで仕事をしている人もいますし、私の知り合いで子育てしながら研究している人もいます。

仕事・アルバイト

Q: アルバイト・仕事はしている? どんな仕事をしている?

学部生と同じく、院生の多くもアルバイトや仕事をしています。また、多くの回答者がいくつかの仕事を掛け持っていることがわかりました。(複数選択可)

Q: アルバイト・仕事はしている? どんな仕事をしている?

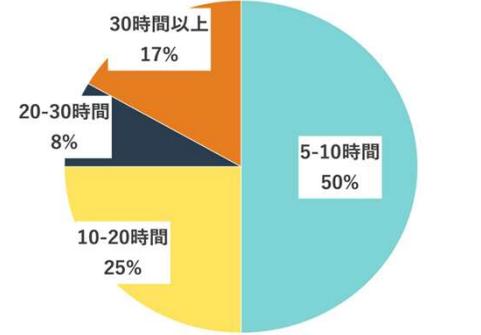
そういえば、さっき仕事をしている人もいるって言ってましたけど、実際、皆さんどんな仕事をされているんですか?



授業・研究補佐や教員など院生ならではのお仕事もあるね。この経験はキャリアにつながるんだね。

Q: (アルバイト・仕事をしている場合) 週に何時間働いている?

日常生活の消費に加え、フィールドワーク(国内外)に出かけるなど研究生活上での消費もあります。そんな生活の金銭的支えとして欠かせないのがアルバイトや仕事。大学外での仕事は研究からの頭の休憩になったり、家にもりまりの院生が社会と関わる貴重な機会になったりもします。



中にはフルタイムで働きながら研究を進める猛者もいるのよ。

大学院は、自分可能性を広げられる大切なチャンスだと思ふ。それに、今私たちが持っている研究が社会の可能性を広げることにもつながると信じているんだ。大学院に少しでも興味を持ってもらえたら、うれしいな。

大学院かあ... ちょっと考えてみようかな。ペンギンさん、MIRAI生の皆さんの率直な意見を聞いて、大学院のイメージが前よりはっきりしてきました！

研究は1人でもできるかもしれないけど、やっぱり研究の話を気軽にできる仲間や、一緒に頑張っている仲間がいるのが気に入っているわ。他の人の研究を知ったり、入っているわ。他の人の研究を知ったり、人それぞれの視点や考え方を聞いたりできるのも、刺激になるわね。

大学院生活には大変なこともありますが、進んで博士課程にまで進んだことは、自分にとって大きなプラスだと思つています。学部時代は、自分の興味があるテーマを見つけて一杯でした。大学院ではそれをじっくり深める時間が持てて、本当に良かったです。

院生の利点

研究者の卵として学会などで本格的な研究に触られる一方、学生として寛大に接してもらえるなどの意見もありました。研究について語る仲間がいること、興味を持ったテーマや対象に向き合う環境と時間があること、という点を挙げた人は複数人いました。

- 日々の成長を感じられる
- 自分の研究テーマに時間をかけて向き合える
- 考える時間を確保できる
- 柔軟なスケジュール調整ができる
- 研究や分析のスキルを身に付けられる
- 仕事で得られない人間関係が築ける

他にもこんな「良かったこと」がありました。使えるのは大きいね。

いきなりスケジュールの小さい話になったなあ...でも院生は経済的に不安定だから、学園が使えるのは大きいこと！

ところで、皆さんは院生になって良かったところって何ですか？

院生の利点

博士課程に進んだからといって、必ずしも大学の先生を目指す必要なくともいいんですね。それに、研究以外にも身に付けられることがありそうです。



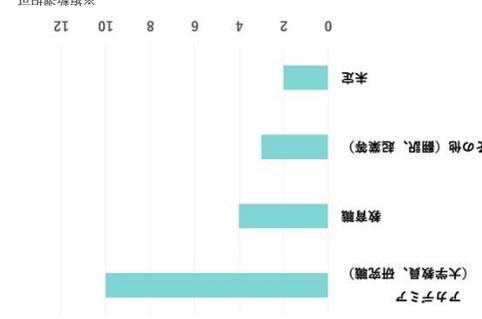
2024年3月の訪問時は 辺り一面雪景色になりました。MIRAIでは企業や地方自治体と関わりを持つ機会もあります。下の写真は現在始動している山形県高島町との協働企画の様です。

「フカミリア以外でも文系博士の学位と専門性を持って活躍する人材を増やす」というのは、社会の課題でもありますよね。

フカミリアを目指すことも視野に入れていき、それ以外の選択も積極的に模索していきたいわね。

院生の利点

フカミリア（またはの名を研究職）は、大学または何らかの研究所で専門を生かして研究に携わる仕事です。それ以外では、語学教師（日本語・外国語）や学校教員など教育に関わる職種を希望している人もいました。



「博士課程修了後に想定している進路は？」

まあ、たしかに文系院生の鉄板の就職先といえどフカミリアだけじゃなく、必ずしも大学の先生を目指している人ばかりじゃないよ。

でも、大変な中で、大学の先生になるために、皆さん頑張っているんですね。

進路

おまけ：院生おすすめの語学勉強法

耳から学習法

私は文を目で見るより耳から学習するのが自分に合っていると思っています。何かを暗唱したり口真似したりするのが得意な人は同じタイプかもしれません。まずは音声（ポッドキャストなど）を1日30分以上毎日聞きます。（初級の人はゆっくりめのがあれば吉。）最初の頃は何を言っているのかわからなくても3か月から半年ほどで言語のリズムがつかめ、内容も理解できる部分が増えていきます。ちなみに話す練習には例文を口が覚えるまで丸暗記がおすすめ。（小田）

念写法

私は目で学習の方が向いていると思っています。暗記を位置でする人は似たタイプかもしれません。①覚えたい言語の文章や作文を目の前に用意。母語で意味を把握します。②カメラで写真を撮るように、目の前にある内容をパシャッと目に焼き付けます。③脳に焼き付けた内容を、紙に念写するイメージでぱっと書いていきます。④文章を再現できたか原文と照らし合わせてチェック！できていないところがあれば②に戻ります。再現できていない箇所をチェックすることで、理解が不十分な文構造や綴りの怪しい単語を効率的に発見し、自己テストと学習を同時進行できます。（沼畑）

たればスピーキング練習法

作文を続けるのはなかなかハードルが高いもの...そこで私は作文したいと駆り立てられる瞬間を逃さないようにしています。あれやこれや思い返す癖をいかにして、特に会話の機会があった時など、後からうまく伝えられなかった部分を検索エンジンで文丸ごと、他にも使っている人はいないか調べながら、ああいう言い回しがあったのに、と反芻しているうちに自然と作文の練習になっている気がします。（洪）

編集後記：企業に勤める友人と会うと、「普段、何をしているの？」とよく尋ねられます。院生が何をしているのか、同じキャンパスにいた人々にすら知られていないことが多いようです。一昔前には「象牙の塔」と言われることもあったように、アカデミア—特に人文科学分野—は、社会とは少し距離がある場として語られることがあります。近年、政府や産業界でも博士人材の活用が謳われ、大学側では社会との共創が目指されていますが、人文科学分野においては、まだ道半ばを言わざるを得ません。そんな中で、今私たち大学院生にできることは、大学院での研究活動を知っていただくこと、より身近に感じてもらうことだと考えています。本マガジンが、その一助となり、人文系大学院への関心を深めていただけるきっかけとなれば幸いです。最後に、本企画の実現にあたり、企画、編集、デザイン、印刷等、さまざまな形で協力くださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。（代表：沼畑）

マガジン「文系博士院生の生態」編集委員
石橋裕子、小田千帆、沼畑向陽、洪朝陽、大西達貴

スペシャルサックス
MIRAI推進室の皆さま、アンケートに協力してくださった皆さま



TReND (学際研究共創) センター
Center for Transdisciplinary Research, Networking and Dialogue

TReNDセンターは、共同研究や学際研究、また本学で行われている研究成果の社会への還元に向けた取り組みを支援する組織です。

研究者同士、また企業・行政をつなげることで、専門の枠を超えて何かをやってみたい研究者にその機会を提供すると共に、研究者のキャリアの幅を広げることも意識しています。



MIRAI Webサイト
<https://www.tufs.ac.jp/mirai/fellowship/>



モチベーション維持法

3年間（またはそれ以上）の長い研究生活はアップダウンもつきもの。皆さんのように研究のモチベーションを維持し、ストレスを解消しているのでしょうか？

Q: あなたの研究ライフを支えるものは？
(モチベーション源、ストレス解消術・グッズなど)

- 学会発表先での観光
- リップクリーム（スースーしていい感じになる）
- 院生の友達と研究について話せること
- ペットとのふれあい（イヌ、オカメインコ）
- 水泳、サイクリング
- ぬいぐるみ
- 進捗報告、諸々の締め切り

私は甘味で癒やしを得ているわ。それとデスクワークだから、座り心地のいいゲーミングチェアは必須ね。

私は濃い目のブラックかアイスアメリカン！ それと落書きの時間かな。

中にはモチベーションの源に「怒り」を挙げられる人もいました。社会問題などをどうにかしたいという強い思いがあるのでしょうかね。